様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">美術館検討委員会（第２回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">市民活力推進部文化国際課　電話０４２－７６９－８２０２（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２０年３月２５日（火）　１５時００分～１７時３０分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">ウェルネスさがみはら　７階　会議室４</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">９人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">６人（市民活力推進部長、文化国際課長、他４人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>２人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　開　会
２　議　題
(1)相模原市の美術館は、何を目指す美術館なのか。
(2)相模原市の美術館は、何をする美術館なのか。
３　その他
４　閉　会</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局の発言）

１　開　会

相模原市市民活力推進部長あいさつ

２　議　題

（１）相模原市の美術館は、何を目指す美術館なのか。

資料別紙１～４等（会議以前に委員に送付済み）について、事務局から説明を行った後、議案に基づいて各委員で意見交換を行った。また、冒頭に欠席委員の意見（資料）を事務局から報告した。

○市内に住んでいるが、本市には「売り」がない。美術館には品のあるイメージが大切だ。美術館の「売り」として何かしらのセールスポイントを考える必要がある。また、美術館で事業を行う際には、従来の枠を越えた他との連携を考えてはどうか。建設予定地と隣接する商業施設や集合住宅エリアの住民との連携を考える必要がある。さらに、他の美術館の良い点は積極的に取り入れていくべき。また、美術大学も近くにあり、若い作家を中心にした「若い美術館」としてはどうか。メインの企画展示に合わせて若い作家の展示も行えば、若い作家の展示も来館者の目に触れる。

○資料などを見ても、本市には特徴が無いことが分かる。美術館建設予定地の橋本からは丹沢の眺望が良いし、津久井４町との合併により市域に良い自然環境も得られた。美術館建設の際、丹沢の景色が良く見えるように考えてはどうか。また、商業施設との連携も課題だ。美術館は近隣市外の人たちにも広くアピールできるものになって欲しい。企画内容としては、若いアーティストや美大との連携などを①アーティストインレジデンスなど作家の創作の支援、②市民の芸術的感性の向上や創造性を発揮できる事業、③いわゆる「箱物」の美術館ではなく、地域特性や文化資源の活用できる美術館となることを希望する。

○収蔵品が無ければ美術館は単なるギャラリーと差が無い。収蔵品は美術館の顔であり、今後どのような収集をしていくのかについて考えを整理していくと、美術館の方向が見えてくるのではないか。商業施設との連携については、ぜひ行う方向で考えていきたい。主婦の立場で考えると、「環境問題」が気になる。本市には自然が多いが、一方で都市的なイメージがある。美術館と商業施設との連携についても、環境への配慮をした上でお願いしたい。

○配布した資料で海外の事例を紹介したい（資料説明）。アートが都市にいかに関わるか、海外にはアクティブな動きがある。クリエイティブシティ（創造都市）として、アートを都市に取り入れていくことで活性化する都市がある。本市にマッチするかは未知数だが、市民に対するアートの及ぼす影響について考える必要がある。モニュメントなどを作り、美術館やオペラハウスなどが街のシン

ボルとして機能すれば、市民に誇りを持たせることができる。美術館はアートする都市にとって核となるが、美術館として完結するのではなく、都市の中でどのように機能するかが重要。イギリスのニューキャッスルでは eat フェスティバルで食に因んだイベントを開催。飲食店に頼んで、イベントに合わせた特別メニューを用意してもらうなどして観光客を誘致し、経済的な効果があった。美術館とショップとの高い視点での協力が望ましい。

〇高い視点とは、都市整備や自然環境レベルの視点が必要ということか。

〇有能な学芸員は、単に収蔵品を管理するだけでなく、アートを様々な事業に発展させていくことができる。

〇本市には「売り」が無いというが、逆に「何があるか」を考えると、前市長は「人が宝」と話していた。市内にも「凧」や「和竿」、「組み紐」等いろいろな展示施設がある。金沢２１世紀美術館は金沢のまちとタイアップした企画を行っている。人のつながりを大切にする美術館にすればよい。美術館は、「来ると楽しい場所」にし、商業施設と行き来して楽しめるような美術館にすればよいと思う。

〇本市には美術館を建てられそうな場所があちこちにあるような気がするが、場所は既に決まっている。通常、美術館は山の上のようなところに建てるが、今回は駅近くの商業施設に隣接して計画している。普通の美術館では考えられないが、今の時代、普通の美術館はもう必要ない。本市は全国でも珍しい「発展する街」だ。発展する街の中心に美術館を据えて考えてみれば自ずと方向は見えてくるのではないか。他の美術館は参考にはならない。本市は東京に近く、市の内外にもいくつも美術館がある。口先だけで「市民と何かをやる」というのはごまかしでしかない。本当の意味で市民を説得して美術館を運営していかなければならない。

〇本市美術館について、具体的な意見として、①他の美術館は気にしないこと、②コレクションは要らないとは言わないが、収蔵品偏重でないこと、③社会に貢献できる機能を有すること、の３点である。地域に貢献し、地域の資源を生かさなければならない。人や自然、歴史という資源を改めて発掘していくことが重要。美術館に人を集めるのではなく、美術館を発信基地にして活動を地域に広げていくこと。ドイツのミュンヘンには美術「館」ではなく教育美術「センター」がある。こういった美術センターでは職員は職場の中に留まっているのではなく、積極的に外に出てアウトリーチやワークショップを行っている。この場合小中学校との連携は不可欠だ。また、美術館は市民の不満に応えるものでなければならない。本市の満足度調査を見ると、重要度は高いのに満足度は低い施策がある。高齢者や障害者、学生に活躍の場を与えるべき。特に障害者の芸術を大きく取り上げる美術館はない。障害者の美術は、障害者が福祉法

人の作業所に通所してつくっているものがほとんど。美術については、障害者の美術であれ高齢者の美術であれ、美術館が取り組むべきではないか。今まで美術館が取り組んでいないものに取り組むべきだ。

○いわゆるホワイトキューブといった美術館をつくるのか、地域・障害者・高齢者に積極的に取り組む美術館にするのか。方向性は大きく異なる。

○美術館と呼ぶと、普通は「登録博物館」に該当し、博物館法に縛られる。美術センターとして博物館法に縛られない活動を行う博物館相当施設や博物館類似施設となる選択もある。彫刻の森美術館は厳密には博物館ではない。開かれた美術館にするために敢えて美術館という名称にしないで「美術センター」にしてはどうか。

●美術館建設の担当は昨年まで教育委員会の生涯学習課であったが、今は市長部局である文化国際課が担当している。所管が教育委員会ではないので、登録博物館ではなく、博物館に相当する施設になろうかと思われる。

○コレクション型で行くのか、事業中心で行くのかということで、美術館のタイプが問題になっているようだが。

○美術館の型を決めてかかるべきではない。事業も行うべきだが、コレクションも重要な要素だ。事業とコレクションは美術館の両輪ではないのか。

○美術は「気づき」であったり「発見」であったりする。また、美術は教育的な面が大きく、子どもたちや高齢者が主な対象となりうるので、市が積極的に関与していくべきではないか。イベントは市が市民を巻き込んでいき、アートに関する意識を持たせることが重要である。地元の人たちだけでなく、遠くからも人が集まることが大切であり、美術館が街を刺激し続けることで、商店のサイン（看板）や装飾が変わっていくのではないか。また、子ども美術館でも良い。子どもデーや子ども向けのプログラムを行うことで子どもたちに特化するとか、専門美術館にする方法もある。また、障害者に特化することも考えられる。

○子どもや高齢者というくくりだけでは対象が見えてきにくい。子どもは小学生だけではない。中高生は難しい年代だ。これからの相模原を担っていく子どもたちの育成について、こういった年代の子どもたちにも目を向けて欲しい。

○世田谷美術館でも、中高生を対称にしたプログラムを行っているが、ほとんど美術館に来ない。難しい年代である。

○受験生に役立つプログラムなどを行うと美術館に来るのではないか。

○少子化のため、逆に教育熱が上がっている。子どもは塾通いに忙しく、美術館には来ない。親と子どもが一緒に来るイベントであれば来る可能性はある。

○美術大学への進学希望者を対象に何か企画してはどうか。

○しかし、美術大学への進学希望者を対象としても、実際には、美術大学への進学希望者の絶対数が少ないのではないか。

○横浜市の美術館以外の活動で、BANKART(バンク・アート)の取り組みなどにも注目すべきものがある。

○横浜市を始め、街づくりや福祉、教育にアートが関わるのが流行りだが、なぜアートなのか、アートとは何かを考える視点がないと事業として機能しない。横浜市以外の地域にどのようなイメージで伝わっているのか見極める必要がある。本市の地域特性を広い視野で見ると、「特徴の無いのが特徴」である。この地域は都市として開発途上であるため、市にある資源がうまく活かされていないのではないか。

○今回のテーマは「相模原市の美術館は何を目指す美術館なのか、何をする美術館なのか」であるが、美術館として何をすべきかについてはどうか。

●美術館が何を目指すかが決まっていない中では、何をすべきかの議論は困難かと思われる。

○美術館が目指すことについて、様々な意見が出たが、まとめはどのようにするのか。

●委員の意見については、事務局で記録をとっているので、次回までに各委員の意見をまとめて資料化することでよろしいか。

●話し合いの中に、美術館を検討するうえで様々なキーワードがあった。今回の話し合いをまとめて次の回につなげていきたい。

○今のままでは話し合いが入れ子になる。一度まとめた方がよい。

○美術品を収集するか、しないかについては、多数決で決められるものではない。収集については市の方で基本的な考えを示すべきだ。

●市では、美術品等収集基金で作品を収集しているが、この検討委員会で美術館の収集方針も含めて討論していただきたい。市の考えを示すのは皆さんの意見が出揃った後のほうが良いと考えている。

○美術大学を卒業して間もないような、若い作家たちの作品を蓄積していって欲しい。細々にでも収集をしていくべきだ。

○収集するのみでなく、事業としても若い作家を援助したほうが良い。若い作家の作品が売れるような事業を考えていくべきだ。

○水戸芸術館では若い作家を応援しており、大きな展示に合わせて若手作家の展示を行い、多くの人に若手作家の作品を見てもらうように工夫されている。また、市民ボランティア制度がしっかりしており、作家との交流ができる点がボランティアの喜びになっている。このような組織は、「ボランティア室」を作ることで根付きやすい。ボランティア参加者にも満足と誇りが与

えられれば、低コストでも良い効果が得られると考える。

○美術品は個人で所蔵することは難しい、また、作品については、最低限の保存や研究が必要である。美術館は積極的にそのことに取り組むべきであり、美術館がやらなければ美術品は失われてしまう。

○美術品の保存には、広い場所とコストが必要になるのか。

○場所もコストも必要だが、学芸員という人間も必要である。作品の保管は、美術館の大きな部分を占める。

●最近建設された美術館の収蔵庫は、通常美術館の５分の１～４分の１程度の床面積を占めている。それでも満杯になる美術館が多い。他美術館視察では、収蔵庫やバックヤードは大きい方が良いと教えられた。また、空調は温度湿度とも厳密に２４時間管理できるものが必要である。

○現在、市の収蔵品はどこに保管しているのか。

●博物館の収蔵庫の１室を美術品収蔵庫として割り当てている。しかし、その収蔵庫も満杯状態である。

○本市は土地が広いのだから、収蔵庫だけどこか別の場所に設けることは考えていないのか。

●運送費や保険料などの経費の他、運搬時に損傷する危険などを考慮する必要がある。

○水戸芸術館は収蔵品を持たないことにしていたが、相模原市ではどうか？

○水戸芸術館は、茨城近代美術館が市内にあるので、役割分担として展示に特化しているという事情がある。

○本市は市民ギャラリーという展示のみの施設があるが、美術館を作るのであればいろいろな機能を持たせた欲張りな美術館にしたい。

○この続きは次回に持ち越したい。その他、何かあるか。

３　その他

事務局から、資料「全国中核市　市立美術館設置状況調査表」及び「神奈川県内及び本市周辺の市立美術館設置状況調査表」について説明した後に、次回の検討委員会について日程調整等を行った。なお、第１回検討委員会で事務局から提案した５月１５日の文化振興プランの検討委員と合同でのバス見学については、希望委員が参加することとし、第３回検討委員会は別途行う事として日程調整を行った。その結果、欠席委員がいたことから、次の日程を候補とした。

第１候補：5/22（木）16：00～18：00

第２候補：5/15（木）16：00～18：00（この日の場合、バス視察はできない）

○次回検討委員会までに、美術館の運営予算等についても調査できるか。

●数美術館に限られるかもしれないが、可能な限り情報を集める。

○現在ある美術館は、作ろうとして作ったというより、「できてしまった」という美術館が多いように感じる。この検討委員会は、美術館を作る上で二度とない機会である。では、次回にこの続きを行いたい、本日の検討委員会はここまでとします。

美術館検討委員会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	生　嶋　な　ぎ	公募委員		出席
2	石　野　克　彦	公募委員		出席
3	稲　木　吉　一	女子美術大学	教　授	出席
4	上　條　陽　子	市民の美術館を考える会	代　表	出席
5	清　水　哲　朗	東京造形大学	教　授	出席
6	陶　山　定　人	相模原芸術家協会	会　長	欠席
7	高　橋　直　裕	世田谷美術館	学芸員	出席
8	原　田　　光	横須賀美術館	副館長	出席
9	古　田　　亮	東京藝術大学	准教授	欠席
10	松　本　美代子	市立緑ヶ丘中学校	校　長	出席
11	森　脇　裕　之	多摩美術大学	准教授	出席